令和４年度第２回川崎市社会教育委員会議

宮前市民館専門部会次第

日　時：令和４年９月２１日（水）午前１０～１２時
会　場：宮前市民館 第４会議室

１　あいさつ

２　資料確認等

３　議事
(1) 報告事項
ア　宮前市民館・菅生分館の社会教育振興事業について

イ　宮前市民館専門部会　令和２・３年度研究報告について

(2) 協議事項
今期の研究課題について

(3)その他
ア　第３回・第４回（宮前市民館専門部会および市民自主学級・市民自主企画事業の提案会と選考）の日程について

・ 第３回宮前市民館専門部会の開催日・会場
令和４年１２月１３日（火）午前１０時～１２時　第４会議室（予定）

・ 第４回宮前市民館専門部会（令和５年度 市民自主学級・市民自主企画事業の提案会と選考）の開催日・会場
令和５年　２月１９日（日）午後１時～　大会議室（予定）

イ　その他

令和４年度第２回 川崎市社会教育委員会議
宮前市民館専門部会（９月２１日）配付資料一覧

資料１　令和４年度・令和５年度川崎市社会教育委員会議宮前市民館部会 委員名簿
資料２　令和４年度 宮前市民館社会教育振興事業実施状況
資料３　令和４年度 宮前市民館菅生分館社会教育振興事業実施状況
資料４　令和２・３年度 宮前市民館専門部会 研究報告書「人と人を繋ぐ市民館であるために」他

(参考)
●宮前市民館だより　第２４３号（９月１日発行）
●菅生分館だより　第１７２号（７月１日発行)、１７３号（１０月１日発行）
●宮前市民館事業チラシ
○「古墳にこーふん！宮前区は古墳の王国だった！　８月」
○「古墳にこーふん！秋のウォーキングツアー　１０月」　市民自主企画事業
○「夏休み子どもあそびランド 2022 開催案内」
○「夏休み子どもあそびランド 2022 当日案内」
多様な主体が参画する子どもあそびランド事業
○「広げよう！私と子どものミカタ宮前親子学級 2022」　家庭・地域教育学級
○「Let’s Enjoy Your Song～みんなでうたおう！！～」　市民自主企画事業
○「宮前を知って歩いて楽しもう」　市民自学級
○「スマホ相談会　８月」
○「スマホ相談会　９月」
○「出張スマホ相談会　１０月」　現代的課題学習事業
●菅生分館事業チラシ
○「我が故郷　向丘村の人・川との関わり」　市民自主学級
○「我が故郷　向丘村の人・川との関わり　公開講座　向丘と周辺の古代遺跡について」
市民自主学級
○「赤ちゃん期の今だからできること　きいてみよう! やってみよう!」
家庭・地域教育学級
○「おしゃべりサロンすがお　これからの予定」　課題別連携事業

●生涯学習情報誌「ステージ・アップ」ＶＯＬ．２４２号

令和4・5年度川崎市社会教育委員会議宮前市民館部会 委員名簿

（任期 令和4年5月1日から令和5年4月30日）

選出区分	氏　　名	現　　職
1号 （学校長）	丸尾（まるお）　明彦（あきひこ）	川崎市立西有馬小学校　校長
2号 （社会教育関係団体）	渡辺（わたなべ）　美代子（みよこ）	宮前区文化協会　会計
	山本（ヤマモト）　良子（リョウコ）	宮前第4地区民生委員児童委員協議会　会長
	山本（やまもと）　太三雄（たみお）	菅生分館利用者懇談会
	髙久（たかく）　實（みのる）	宮前区全町内・自治会連合会　理事
3号 （市民委員）	楢崎（ならさき）　光雄（みつお）	市民委員
4号 （学識経験者）	川西（かわにし）　和子（かずこ）	調査モデレーター・分析・各種司会
5号 （家庭教育）	當間（とうま）　幸江（ゆきえ）	宮前区PTA協議会　副会長

◎部会長　〇副部会長

（令和4年　月　日現在）

令和４年度　宮前市民館社会教育振興事業実施状況

令和４年９月８日現在

	事業名［愛称］	内　　容	日　　程	対象･参加状況
通年事業・準通年事業	識字学習活動 昼・夜	日本で生活する外国人が、日常生活に必要な基礎的日本語を学ぶとともに、日本人と外国人が互いの文化等を学び合うことで、多文化共生社会をめざす。	昼 4/15～3/10 金 10:00～12:00 全 32 回 保育つき（今年度は保育中止予定） 夜 4/13～3/8 水 19:00～20:30 全 34 回	昼 参加者：13 人 夜 参加者：16 人
	障がい者社会参加活動 ［みやまえウィンズ］	障がいのある人の社会参加を図るため、障がい者も健常者も共に余暇活動や交流を行い、共生社会をめざす。	5/8 ～ 3/12 日 10:00 ～ 12:00 全 10 回	参加者：25 人(定員 25 人) ボランティア：14 人
	ＰＴＡ家庭教育学級 講師派遣	市内小学校ＰＴＡ等で開設される、家庭教育学級の開設の支援及び講師謝礼を補助する。	宮前区及び高津区(一部)の小学校などにて開設予定	参加申込学校数：17 校
	課題別連携事業 ［おもちゃ病院］	壊れたおもちゃを直すことを通じて、物を大切にする心を育むとともに、交流を図る。	偶数月の第４日曜日	件数：22 件(4/24)、25 件(6/26)、29 件（8/28）
	現代的課題学習事業 ［スマホ相談会］	昨年度市民エンパワーメント研修を受講したメンバーが、スマホボランティアとして、スマホの基本操作などの相談に乗ります。	８月から毎月第１木曜日 月により市民館か向丘出張所で実施	件数：18 件（8/4）、15 件（9/1）
終了	識字ボランティア 研修（夜クラス）	識字学習活動等に参画するボランティアの資質の向上を図り、多文化共生の地域社会をめざす。	7/20 水 18:00～20:00	対象：宮前市民館で識字ボランティア活動中の方 30 人 参加者：18 人、
	シニアの社会参加支援事業 「自分史を作って、新たな１歩を！」	今までの人生を振り返りながら、昔興味があったものや、自分でも気が付いていなかったことの発見など、これからの活動に結び付く何かを見つけてみる。 また、様々な地域活動の体験も実施。	5/18 ～ 7/20 水 14:00 ～ 16:00 全 10 回	対象：概ね 50 歳以上の人 20 人 参加者：20 人
	区役所多様な主体の社会参加推進事業 ［夏休み子ども あそびランド］	子ども対象のイベントに、地域で活動をしている大人が遊びの達人として、区内の市民団体及び中高生サポーターなど多様な立場の人々などが参加、交流することで地域コミュニティ創造の一助とする。	･8/20(土)、21(日) 10:00～12:00	参加者 ･達人 69 人 ･サポーター 53 人 ･来場者 980 人
開設中	家庭･地域教育学級 ［宮前親子学級］	子どもが本来持つ、自ら育つ力を知る。親も自分自身を大切にし、これからの自分を考える。地域で子育てしやすい環境づくりに関わることができるようにする。	9/1 ～ 12/15 木 10:00 ～ 12:00 全 15 回（別室保育）	対象：平成 31 年４月２日以降生まれの第一子の保護者 12 人 参加者：9 人
	青少年教室 ［宮前市民館発、地元アドベンチャー！イベントを楽しもう！］	中高生を対象に、市民館主催の子どもを対象としたイベントで一緒に企画や活動をしてくれる仲間を募集し、いつもと違う仲間と、地域での活動に一歩を踏み出してみることにチャレンジしてもらう。	8/7 ～ 11/27 日 10:00 ～ 12:00 全８回	対象：中高生など 20 人 参加者：7 人
	市民自主企画事業 ［古墳にこーふん！宮前は古墳の王国だった！］	あまり知られていない宮前区内の古墳について、親子やお孫さんと、楽しく歴史が学ぶことができ、地元への関心を強めてもらう。	8/4、10/23、1/15 全３回	対象：関心のある方 15 組（8 月） 参加者：18 人（10 組）
	市民自主企画事業 ［Let’s Enjoy Your Song～みんなで うたおう!!～］	歌の背景にある「エピソード・秘話」などを学び、歌を通じて認知症予防、高齢者の外出機会や学習機会の提供のきっかけとする。	9/6（火）～2/7（火） 10 時～12 時	対象：関心のある方 40 人 参加者：40 人 （申込数 111 人）

令和４年度　宮前市民館社会教育振興事業実施状況

令和４年９月８日現在

	事業名［愛称］	内　　容	日　　程	対象･参加状況
開設予定	識字ボランティア研修（昼クラス、夜クラス）	企画中		
	平和･人権･男女平等推進学習１	企画中	11 月～12 月　全５回を予定	
	平和･人権･男女平等推進学習２	企画中	１月～２月　全５回を予定	
	高齢者セミナー	企画中		
	保育ボランティア養成講座	企画中		
	市民自主学級［宮前を知って歩いて楽しもう］	郷土の成り立ちや文化を知って、歩いて、楽しみむとともに、町の人たちと交流しながら仲間づくりをする。	9/25（日）～12/11（日） 10 時～12 時	対象：関心のある方　30 人 参加者：30 人
	市民エンパワーメント研修	企画中	１月～２月　全５回を予定	
	生涯学習交流集会	企画中	3/11　土　開催予定	
	課題別連携事業［みやまえ子育てフェスタ 2022］	「ゆっくり深呼吸、心のマスクをはずそうよ」をテーマに子育てに関わる人を応援するイベントを開催する。	10/22　土　10:00～15:00 （9/24(土)　プレイベント「０歳からのファミリーコンサート」を開催）	自由来館（一部事前予約）
	寺子屋コーディネーター養成講座	放課後に学校で学習支援を行い、土日に体験活動をする地域の寺子屋を運営するコーディネーターを養成する。中原・高津・宮前市民館による合同開催。	11/30(水) ～ 12/21(水) 14:00～16:00 など　全５回	対象：関心のある方 定員：20 人
	区役所宮前区地域人材育成指針関連事業	「宮前区地域人材育成に係る基本方針」に基づき、区役所各課と連携して地域人材を養成する。今年度は危機管理担当との連携を予定。	２月～３月　開催予定	

令和４年度　宮前市民館菅生分館　社会教育振興事業実施状況

令和４年９月８日現在

	事業名［愛称］	内　　容	日　　程	対象・参加状況
通年事業・準通年事業	課題別連携事業 ［おもちゃ病院］	壊れたおもちゃを直すことを通じて、物を大切にする心を育むとともに、交流を図る。	奇数月の第２日曜	件数：8 件(5/8)、 7 件(7/10)、5 件(9/11)
	課題別連携事業 ［おしゃべりサロンすがお］	孤立しがちな人々が気軽なおしゃべりをできる場としてサロンを開催し、気分転換や新たな人間関係を育み、健康的で主体的な生活を楽しみながら、ふれあい・支えあいの地域づくりを目指す。	毎月第４木曜午前 （12 月のみ第３木曜）	参加人数：15 人(4/28)、 18 人(5/26)、18 人(6/23)、 15 人(7/28)、22 人(8/25)
	学習情報提供・学習相談事業	市民の主体的な学習活動・市民活動の支援策の一環として、様々な学習情報・市民活動情報を収集・整理し、適切な形で公開・提供する。また、求めに応じ、市民及び市民グループなどの生涯学習に関する相談に対し、情報提供、助言を行う。	随時	8 月末現在　20 件
終了	市民ｴﾝﾊﾟﾜｰﾒﾝﾄ事業 ［保育ボランティア入門講座］	保育ボランティアの必要性と子育て支援の大切さを学び、地域に貢献できる人材を育成する。また、講座終了後は実際に保育ボランティアとして活躍できる場を提供し、仲間づくりや子育て中の人たちを地域で支えあう優しい地域づくりにつなげる。	5/17、24、31、6/7、14、21 火曜午前 全６回（先着順）	定員 20 人 参加人数 18 人 （うち３人は一度も参加せず） 14 人(5/17)、14 人(5/24)、 13 人(5/31)、15 人(6/7)、 13 人(6/14)、14 人(6/21) ※10 人が市民館保育活動に参加予定
	青少年教室事業 ［地域で探す『マナビ』のタネ］	学習機会を提供し、地域の中での仲間づくり、つながりづくりを促進する。今回は、小学生に焦点をあて、地域で活動している団体と連携して講座を企画・運営することで、地域を知り、世代間交流を図りながら学びを体験する。	7/27 水墨画体験 8/4 紙芝居を見て戦争を考える 8/13 自然エネルギー工作 8/23 動画制作体験 10 時～12 時（抽選） （8/23 のみ 13 時～16 時）	定員　各回 15 人 10 人(7/27) 水墨画体験 11 人(8/4) 紙芝居を見て戦争を考える 12 人(8/13) 自然ｴﾈﾙｷﾞｰ工作 12 人(8/23)動画制作体験
	シニアの社会参加支援事業 「人生 100 年時代 体ととのえ健やかライフ！ ～今を楽しみ、未来に備える～」	コロナ禍において、より重視されるフレイルの予防について学び、フレイル予防のための具体的な行動を実践する。また、人生 100 年時代を生き生きと過ごす仲間づくりのきっかけとする。	6/2、9、16、23、30 木曜日 14 時～16 時 全５回（抽選）	定員 20 名 原則として、概ね５０歳以上 19 人(6/2)、19 人(6/9)、18 人(6/16)、17 人(6/23)、17 人(6/30)
開設中	家庭・地域教育学級 ［赤ちゃん期の今だからできること。 きいてみよう！やってみよう！］	戸惑いが多い初めての子育てで、子どもの育ちで大切なことを学び、地域の仲間と話すことで自分たちの子育てに自信を持ち、学びや体験を共有することで地域における仲間づくりを図る。	9/13、10/2、16、25、11/8、22、12/6、20 火曜午前（第２、３回は日曜）全８回（抽選）	定員 15 組 参加者：９組 対象：令和３年４月～令和４年３月生まれの第一子の子どもと５組(9/13)
	市民館保育活動	親等の学習活動への参加を促進し、乳幼児の社会的成長を支援するために、主催事業に適宜併設する形で保育活動を実施する。	家庭・地域教育学級 [赤ちゃん期の今だからできること。きいてみよう！やってみよう！]で保育補助	6 人(9/13)
	市民自主学級事業 ［我が故郷 向丘村の人・川との関わり］	市民と分館の協働により、地域や社会の課題解決に市民自らが取り組むために必要な学びの場を創り、市民の主体的な学習 活動や市民活動を活性化する。	8/24、9/7、21、10/5、19、11/2 水曜午前（先着順） 全６回	定員 20 人 第１回のみ公開講座（20 名） 18 人＋公 20 人＝合計 38 人(8/24)、 17 人(9/7)
開設予定	高齢者セミナー ［魅力発見ウォーキング コロナに負けるな！ 楽しく元気に仲間づくり］	コロナ禍で引きこもりがちになった高齢者。受講者同志交流しながら、外出の機会を設け、歩くことで体力・気力の回復を目指す。また、一緒に学びあい生き生きとともに過ごす地域の仲間づくりにつなげる。	11/9、18、30、12/7 10 時～12 時（11/30 は 13 時～19 時 30 分まで、12/7 は 9 時 30 分～12 時） 全４回（抽選）	定員 20 人 原則、宮前区在住で全回出席できる概ね６５歳以上の方
	現代的課題学習事業 ［学んで安心、初めてのスマホ］	コミュニケーションツールの一つとしてスマートフォンを有効活用できるようになってもらい、仲間づくりの一助にしてもらう。	12/5、12 時～14 時 （先着順）	定員 14 人

令和２・３年度　川崎市社会教育委員会議

宮前市民館専門部会　研究報告書

「　人と人を繋ぐ市民館であるために　」

令和４年３月

川崎市社会教育委員会議 宮前市民館専門部会

1. はじめに

本会は令和２・３年度に「人と人を繋ぐ市民館であるために」をテーマにどのような施策が望まれるかを協議してきた。

今期の専門部会はほとんどの委員が新たに選出されたことにより、どのような研究課題を設定するか、市民館の課題が何かを共有するところから始めた。

折しも 2020 年 2 月から新型コロナウイルス感染症が発生、アルファ株・デルタ株と変化し、2021 年 12 月からのオミクロン株の感染はいまだ沈静していない。この状況の中で市民館を中心とした地域活動は、大きく制限・中止に追い込まれた。コロナ感染の予防策としてのマスク着用（話さない）・ソーシャルディスタンス（集まらない）は、人と人との分断を進め、顔の見えるコミュニケーションや居場所づくりを進めてきた今までの手法が使えないこととなった。この 2 年間、各家庭に引きこもりの高齢者は人と話す機会を奪われうつ状態になる人も増えた。もともと孤立しがちな乳幼児を抱えた母子は益々行き場を失いがちになった。

With コロナ時代の市民館の価値は何か？何をなすべきか？を常に考えながら、また鷺沼移転後の新市民館・図書館の新たな施策を協議してきた。

「あたらしい宮前市民館・図書館を考えるワークショップ」（令和 2 年 8 月～3 年 7 月までの 9 回開催）、「市民館・図書館の管理運営の考え方」と情報共有をしながら、協議テーマは「人と人を繋ぐ市民館であるために」と設定し、用が無くても気軽に一人でも利用でき、市民館に行けば、なにかしら得るものがある楽しみな市民館をイメージした。

本書はその記録である。

２．テーマ「人と人を繋ぐ市民館であるために」について

（令和２年７月、９月・令和２年 12 月）

＜市民館の課題・要望＞

今の市民館への課題や要望として以下の点が挙がり、協議項目を絞った。

＜出前授業の促進・アウトリーチの活性化について＞

・**個人で気軽に立ち寄れるような市民館にするにはどのようにすれば良いか**、また**移転によって宮前市民館にアクセスが悪くなってしまう地域があるので、市民館のアウトリーチという発想も踏まえ、地域展開していける視点**が必要。

・**地域で孤立してしまう子育て世代には、地域のネットワーク作りをどのようにサポートすれば良いか**について、**アウトリーチをどのように進めていくのか**。アウトリーチとは対象者に対してこちらが手を伸ばす意味だが、その手を伸ばしていくことが市民館の使命なのではないか。

・地域へ出前することについて、**地域出前コーディネーターの養成講座**などが必要。宮前区内に市民館が１施設だけでは、利用者は限られてしまう。そこで「出かけていく市民館・図書館」をテーマに考えた。市民館・図書館が地域に出かけていく仕組みや人材育成ができれば良い。例えば、**地域で読み聞かせをする**など、他にどのような活動ができるかを研究できれば良い。

＜情報を届ける仕組みについて＞

・**広報や情報の発信について、市民館に来館しないと情報が得られない、ホームページを知らないと情報にアクセスできない状況**もある。もう少し広範囲に**誰もが必要な情報を入手できる仕組みが必要**ではないか。

・**地域の個人で情報を得られない世代に対して、どのように広報していくかという課題。**

・情報発信については、多くの組織や団体が苦労しているところだ。様々なチラシや媒体はあるが、広報しても捨てられてしまい、報われないこともある。**情報を伝えることと伝わることがかみ合っていない**印象を受けている。そこに対処する仕掛けがあれば良い。

＜新たな市民利用が創出され得る企画について＞

・市民館利用は、団体利用を原則としており、**個人にとって身近な存在と**は言えない。**市民の誰もが気軽に利用できること**が望ましい。**ひとりで使用できるスペースが**無いことが、来る方を限定してしまっているのではないか。

・中原市民館の**フリースペース**では様々な方が和気あいあいと利用している。フリースペースはニーズが高いので、兼用できて様々な市民が用途に応じて利用できる場が必要。

・ロビーで実施している外国人と交流ができるカフェがとても良い。更に**多くの市民が利用できるロビカフェ**があると良い。

・区役所と宮前市民館前の広場で、高校生がダンスの練習をしている。若い世代を取り込むことを考えると、鷺沼移転後も**高校生などが活動できる環境**があると良い。

・**子どもが気軽に市民館へ行って学習活動**ができたら良い。また、宮前市民館のギャラリーの利用率が高いが、子どもの絵や作品が展示されることも良いと思う。例えば、アゼリアの地下街通路には、ガラス張りのスペースがあって子どもの絵を飾ってもらえる。市民館ギャラリー以外のスペースでも、**通路を活かした展示場所**があると良い。

・小学校としては、**放課後支援**について考えていただけたら良い。家庭環境によって習い事等で忙しい子どももいれば、遅くまで公園で遊んでいる子もいる。学習も塾で先取りしている子どもと、日々の宿題が精一杯の子どもの開きがある状況だ。子どもの格差を減らすために、放課後支援として市民館で何かできることがあればと良い。また、**寺子屋**も１０月から再開するが、コロナ禍で高齢の寺子屋先生は、活動を自粛する方も多いそうだ。寺子屋先生も不足しているので、裾野を広げる活動ができたら良い。

＜新たな市民館への要望＞

・都市部の地域では**核家族**が多く、暮らしの中で**孤立**しやすい。例えば、私自身もコロナ禍で、夫婦が罹患した時に子ども達はどうなるのかと不安になる。孤立しないために、**市民館ができることは何か、また、市民館を知らないと情報を得られないこともあるため、もっと周知すること**を考えたい。

・民生委員の立場から、**子育て中の若い保護者のサポート**を考えてほしい。「子育てフェスタ」や「ウェルカムクラス」には、意識の高い方が積極的に参加しているが、そこに**参加できない消極的な人や情報を得られない親子をフォローする仕組み**を考えたい。

・市民館は何をやっている施設かわからない、という声は多い。**目的を持って市民館へ行くのではなく“とりあえず市民館に行ってみよう”と発想ができる場所であってほしい。予定が無いから市民館へ行き、その結果何らかの成果が得られるという場所である。また、市民館は人と人とをつなぐお手伝いができる施設**である。例えば高齢化の問題でも、**新**

しい世代へ何かを引き継いでいく橋渡しや、孤立した世帯を地域とつなぐ。そのためには、市民館から発信することや、市民館が街に飛び出すことも必要になると思う。

・市民館、図書館に限らず、**世代間交流**は重要。

・**市民館や地域の団体がどのような役割で活動しているか知らない市民が多い**。小学生の高学年を対象に、民生委員や文化協会などの活動について**講座を開く**。**子どもに広報を広げる**と将来の活動につながるのではないか。また、市民館も知らない市民が多いので、**鷺沼移転にあたって、勉強会を開催**しても良いと思う。

・**今現在活動しているグループの広報のあり方について、支援が必要**。グループの高齢化や会員が減少してきたということ、新たな入会が無いということから、維持運営が難しくなっている団体が増加している。市民館でも同様の状況があると思うので、既存の活動グループに視点を当て、問題点や改善点、さらに成功事例などを調査分析して、より活動のしやすい場、より充実した活動を目指して、というテーマで取り組んでみてはと思った。

・菅生分館は若い世代が来る環境が整っていない。また、新市民館・図書館は、向丘地区からより遠く、交通アクセスが悪いので、さらに行きづらくなり環境が悪くなると思う。そこで、**分館の拡充**の要望はテーマにはなり得ると思い提案したい。

＜図書館への要望＞

図書館の図書貸し出しなどのコーディネート力や共同庫書に以下の要望が挙がった。

・郷土の歴史について図書館に無い資料が地域の企業や学校・区の施設に埋もれている。そのような資料は個人では借りることができない。**地域資料の図書貸出について、図書館でコーディネートすること**は重要。図書館には様々な個人のニーズがあり、市民館とは異なる事業やサービスが求められている。**キーワードは「つなげる」**ということ。例えば、図書館にない資料をつなげていくのは、司書に求められる資質なのではないか。

・宮前の歴史や文化に関する資料について、宮前図書館以前に開館した高津図書館や中原図書館など他館に多くの資料が所蔵されている。それらの資料は宮前図書館で所蔵できないものか。**地域にある貴重な資料を収集しアクセス**することは、著作権も含めた様々な課題があると思うが、**デジタル化**していくなど工夫をしていく事が必要となる。地域資料について、各館に置きたいところだが、図書館の蔵書が一杯になっている現状もある。そこで、各図書館で役割分担を持つべきところでもある。また、地域資料をデジタル化して、どこからでもアクセスできるようにしていくことは課題の一つ。

・宮前図書館の社会人席について、区の人口に対して６席では少ないので増設してほしい。**閲覧席**は、ニーズが高い。使用方法を工夫して、図書館と市民館は時間帯を見ながら多くの市民が使用できる仕組み作りも必要。コロナウイルス感染対策の対応としては、市立図書館全体の**共同書庫**ができれば、蔵書スペースを少し減らすことで環境が向上するかもしれない。

さらに**＜情報発信や関係部署との連携について＞**の意見は以下の通り。

・今、最も困っているのは、**個の市民**なのではないか。市民館がどのようにコーディネートして何ができるか。特にコロナ禍では、団体で集まることもできないため、大事な視点になる。**個が成熟した市民として、社会教育施設をどのように活用していくか**。その個は、**地域の基礎基盤である町内会自治会が把握**している。**町内会自治会は地域振興課が所管して、今まで市民館はあまりリンクしていないと感じている**が、その中で今後の市民館がどのように地域人材を育成していくか、また、**施設利用のあり方**も課題となる。

・宮前区は活動している市民は多いが、つながって拡大することが少ない。そこで、**地域づくりは町内会自治会が中心になり、また活動の拠点があると情報交換もしやすいので、出張所や菅生分館が拠点**になれば良い。

・本会の前期２年間は「都市型市民館のあり方について」をテーマに、情報発信の手法として、令和元年６月に**市民コンシェルジュ**のモデル実施をした。宮前市民館ロビーで市民のコンシェルジュが、来館者に何に興味をもっているかを聞きながらチラシを配布、活動や催しを紹介して好評だった。そこで活動を定期的に実施するために、まちづくり協議会から資金支援を頂き、令和元年度の本会委員のプロジェクトメンバーと、ロビーでカフェを運営しているメンバーとで市民コンシェルジュとして月１回の活動がスタートした。町内会自治会の**「ご近助コンシェルジュ」の活動と連携**できたら良いのではないか。行政でもコンシェルジュのような、人や情報を繋ぎ、案内をすることが大事である。市民館はその機能をしっかり持ってほしい。

・町内会自治会との共同について、昨年、地域振興課と、若い世代をどのように地域活動や町内会自治会に入れていくかをテーマにイベントを予定していたが、今回はコロナ禍で中止となってまった。課題認識は区役所の中で共有している。**市民館を介して町内会自治会につながっていくという発想**で、つながりづくりの拠点であったり、敷居を低くしたりといったアイデアが必要。

・**分館では、区役所だけにある情報、例えば、マップやガイドなど、休館日以外、朝９時から夜９時まで様々な情報発信をしているので、来館すれば得られる物があるという施設**をさらに進めていきたい。

また、**＜コロナ禍における新たな市民館の視点＞**も出された。

・新型コロナウイルス感染が収束しない中で、市民館の意義や市民館ができる事、新たに提供できる価値は何かを考えていかなければならない。例えば、公共施設の距離を保てる広いスペースは価値があるので、**フリースペースとして転用**することは大切だと思う。また、行政は市民活動を支援する環境づくりをする立場から、コロナ禍の手法として、**リモートやＩＴについて導入のサポート機能**がほしい。

＜まとめ＞

「人と人を繋ぐ市民館」を大きなテーマとし、協議の各論は以下の通りとなった。

１．地域の方に対し、市民館がどのように手を伸ばし、つないでいくか、**出前事業の促進・アウトリーチの活性化について**

２．市民館が、多世代をつなぐ交流の場となり**、新たな市民利用を促進する市民館に行きたくなる企画について**

３．**情報を届ける仕組みについて**

そして、すべての項目について．**行政の各部署の連携**を視野に入れながら協議することとした。

3. 出前事業の促進・アウトリーチの活性化について（令和３年７月）

出前事業の促進のためのポイントと課題は以下の通り。

＜身近な所での出前講座＞＜出前講座や講師の紹介情報の一元化＞

・身近な地域で、寺子屋コーディネーター養成講座を受講できることは良い。

・菅生地区から宮前市民館の講座に参加するにはバス利用となってしまう。高齢者や障がい者、子育て中の人、単身者も気軽に参加しやすいようにするには、地域の中で実施することである。市民館から地域に出向いて実施する出前事業ができれば良い。また、出前事業の活動によって、市民館は、行きづらい、遠い、わからないということが解消される。

・「今後の市民館・図書館のあり方（案）に関する意見募集の実施結果について」の中で「市民が誰でもいつでも行ける身近な図書館、分館を増やしてください」という意見が２４４件も寄せられている。地域の身近な場所で、いつでも情報を引き出せる一覧があると便利。

・地域で実施している講座を紹介したり、逆に自分たちが受講したい時、簡単に情報を引き出せる資料があったりすると良い。出前講座について、既にある川崎市の出前講座や「くらしのセミナー」に登録している団体をどの様に集めたのかを参考にしても良い。

・リストの一元管理について、区役所のソーシャルデザインセンターが動き始めているが、全ての情報を一元管理して様々なところで引き出せるというものだ。それらが立ち上がれば、良くなるのではないか。

＜子供への出前講座＞

・出前講座について、対象は大人だけでなく、小中学生が参加できるような企画があると良い。寺子屋には土曜体験講座があるが、川崎市の出前講座や「暮らしのセミナー」は、平日の開催が多い。子どもを対象とするなら柔軟な対応が必要。

・菅生分館の「親子で自然エネルギー工作を楽しもう！」は、多くの保護者や子どもの関心を得ている。子供対象の講座が、市民館や分館だけでなく学校区や各自治会の地域で開催できると良い。

・「地域に出ていく」ということについて、小学生までの子どもの情操教育は大切なので、視覚や聴覚から捉える紙芝居的な物や、画面を通して語っていく「語り方講座」を市民館で開催し、各自の地域で仲間を集めて活動していくことも「地域に出ていく」ことにつながる。

＜寺子屋を中心としたネットワーク＞

・寺子屋の土曜体験講座の充実を。

・地域の中で、親子で参加する日本文化体験プログラム（刺繍や扇子に絵を描くなど）を開催できる場所を探していた方は、寺子屋スタッフに相談し、寺子屋の土曜体験講座で実施したところ、評判が良かった。そこで、定期的に開催する場所を探し、地元である新神木自治会館が使用できることになった。次に、広報するために、自治会の広報担当に依頼して掲示板に掲載した。今年度はまちづくり協議会の支援金も得て、講座を４～５回開催した。実施してみると、高齢者の参加者も多く「もう何もできない」と思っていた方が「これならできる」と喜んで参加しているようだ。

・**地域の中で、未経験だが教えてみたいという初心者先生を発掘して、講師になる側、受講者側、双方が入れ替わりながら教えあうことによって輪が広がっていく。**その様に、**情報を持っている人は各地域にいる。そんなネットワークを利用する**と良い。

・「かけ算九九暗唱プログラム」は川崎市内の小学校１４校で展開していた。他の区から寺子屋のコンテンツとして実施することを提案され、３回ほど実施。**寺子屋はやりたい人が地元で開講できて、学びたい人が参加する。そんな場の一つとして有効。**

＜ビデオの地域出前＞

・「手間抜き弁当　梅雨に守る７つのルール」など、**盛況な講座はビデオに録画して、市民館ロビーのデジタルサイネージで流し、また各地域へのビデオの出前**もしてほしい。市民館を知らない人と情報も共有し、市民館を拠点として、地域の多くの方に発信できると良い。現在は、物事をＹｏｕＴｕｂｅから学ぶことができる。例えば、**講座などを録画してもらい、各地域に貸し出しをして自治会で視聴する。実施したいと思えば早期にできて、教えたい地域やグループにすぐに提供できる**。その様な素朴な手法も可能。

＜地域振興課との連携＞

・ご近助コンシェルジュは９人で活動している。必ずしも全てに精通している訳ではなく、これまでの繋がり等で強みを発揮している。**出前講座もご近助コンシェルジュと地域振興課と協調して活動すれば、うまく連携ができる**。一方で、ご近助コンシェルジュの立場としては、様々な力を発揮できる団体や個人は、やりたいことを実現する方法がわからない、他に例があるならば知りたい、という思いを持っている。ご近助コンシェルジュは、その様な人を繋ぐ役割を担っていることから、『人と人とを繋ぐ市民館』という研究課題についても、積極的に取り組むことは大切。

＜課題＞

・**予算**はどうするのか、市民自主企画事業のような予算の申請が必要なのか、また、ボランティアや主体的に活動する市民任せになると負担も大きくなるのではないか。

・新しい事業を立ち上げる時、様々なパターンが考えられる。時限的であればその期間の予算を確保することになり、既存の事業から調整して捻出することもある。

・現在好評のおもちゃドクターの活動は宮前市民館と菅生分館だけなので、地域に出向いて活動できると良いのではないか。市民館が意義のある活動として広めるためには、もっと**出前事業として地域に出てドクターを養成**してほしい。

・**出前事業**をするならば、ドクターにその活動の**補助や手当**が出せれば良い。

・**有償ボランティア**を考えてみてはどうか。市民館事業であれば、おもちゃを治して、子どもが長く使うことの教育的な意味がある。また、治してくれたドクターと子どもがおもちゃを介在して交流できる仕掛けを作ってもらえたら、いずれ自分も治したいと思える循環ができるのではないか。

・金銭的な補助が必要なのではないかと思う。今の状態では、宮前市民館と菅生分館で手一杯で出前まで広がらないのではないか。

・市民館がボランティアを増やす手立てとして予算をつけるということか。

・スタッフが増えれば地域に出ていくことに繋がるので、予算を考えていただけると良い。

・「スマホボランティアになりませんか？～スマホを教えるグループを作ろう～」について、市民館として地域に出て広げることが大切だ。**市民館の講座でまずグループを作ってスキルを習得し、ボランティア育成した後は、地域に戻って講座を立ち上げるまで相談に乗り、バックアップする**など育成の拠点になれば良いのではないか。市民館だけでは、主催して教えるだけになってしまうので、地域のボランティアとしてフォローできる方の育成が大切。

＜まとめ＞

出前講座について「本当に地域の人にニーズがあるか」という課題があった。しかし、市民館まで来なくても、**身近な地域で、勉強や学習、活動したいというニーズがあることはわかった。**

市民館で、出前講座を実施するというアピールをしていないため、どの様なニーズあるか察知することが難しい。また、地域の人たちも、習いたいという思いを、どこに訴えたら良いのかわからない。例えば、**市民館のメールマガジンで、「出前講座の希望を取ります」「希望に応えていこうと思う」といったアピールがあれば、情報が集まるため市民が望んでいる情報や学習講座をある程度把握することができる。**

実現に向けて、具体的に場所や予算、活動する人は誰か、広報をどうするかといった課題も出てくる。意見をつなぐ地域コーディネーターの養成と、主体となって出前講座を地域で開きたいと思っている人に先生になるための講座も必要だと思う。養成講座を受けて終わってしまうのではなく、受講によってどこで活躍するか見えてくると良いのではないか。そのための市民館のフォローも重要である。

・ご近助コンシェルジュは、地域の情報を多く持っているので、講師となる方の情報を得られたら良い。また、「宮前まち倶楽部」の地域の中で活躍している方のリストや、市民館の「宮前市民サークル連絡会」のリストを提供していただき、出前講座の実施を打診することが可能かと思う。

・前に、出前講座をやってみようと意欲を持ったグループが幾つかあったが、ご自身の高齢化や介護が発生し、現在の活動だけで手一杯になっている。余力がないと出て行けないので、力を出すには新しい人材を入れる手立てが必要になる。

4. 通勤・通学・買い物などの新たな市民利用が創出され得る企画について

（令和３年 10 月）

新市民館が駅前に立地することによって、新たな利用者となる市民が出現する。通勤通学や買い物で鷺沼駅を使う市民や学生をはじめ、今までは仕事が忙しく市民館に来館できなかった３０代～４０代の市民が、コロナ禍で増加する在宅勤務により市民館や図書館を身近な生活圏として認識し始めるという可能性がある。

新市民館・図書館が**新たに繋がろうとする対象者を**３つにグルーピングしてみた。

１．①今まで市民館の存在・事業活動を知らなかった人たち

②市民活動に興味がなかった人たち

２．市民館に行きづらい人たち

３．駅前立地による新たな利用市民（買い物客、宮前区在勤者、在宅勤務者、中高生など）

上記の１・２は今でも市民館に来たことがない市民で、その一例がワクチン接種で初めて市民館を訪れた市民たちである。その市民に加えて３の新たな市民が利用してくれるような企画を協議した。

＜個人利用＞

・新市民館は鷺沼駅前なので**個人でふらっと気軽に寄ってくれる来館者**を見込みたいことや、幅広い世代に利用してもらいたいこと、市民館に行くのが楽しい、わくわくする、一人でも行けるためには、**自由な参加方式で小回りが利くこ**とが肝要。使用ルールについて貸館を１時間単位からとした臨機応変な使用や、物品販売や飲食も可能にすることなどは若い世代の興味を引く。

・**新市民館の広場と玄関ホール**に焦点を絞っての具体的アイデアは以下の通り。

―広場には植栽や花壇がありベンチやテーブルが置かれ、ゆっくりくつろげる。

―広場でフリーマーケットやマルシェの開催ができる。

―玄関ホールにピアノが置かれ、誰でも弾けてミニコンサートも開催できる。

―玄関ホールにソファーやテーブルが置かれて、読書カフェがある。

―団体や個人で取り組んでいる活動の練習や表現、発表の場がある。

・ワークショップでも提案された**フリースペースについて、カフェが常設**されて運用できると良い。**図書館の廃棄する本を見てもらったり譲渡したりする、また、その本を持ち込んで読むことができる**と良い。

・**活動の紹介や発表をゆっくり鑑賞し、表現者と来館者が交流できる場**があると「人と人との繋がり」の関係が生まれてくる。表現者と来館者が交流できるような場の設定と運営をしていくためには、**コーディネーターが必要**。また、**コンシェルジュの配置**も望ましい。

・市民館の「Ｃａｆｅみやまえ」の連絡会では、ギャラリーで絵や刺繍など、個人の作品を展示する機会を来年３月に設ける計画である。**団体に属さない個人の市民の発表の場**は、少しずつ増えている。場が広がることは良いが、**運営するコーディネーターが必要**になる。

＜若い利用者への企画＞

・町田市生涯学習センターの例であるが、各部屋の前のロビーに机を並べ、中学生から大学生ぐらいの世代が対面してボードゲームをやっている。新宮前市民館にも**ボードゲームができる場**がほしい。常設することにより、**駅を降りてゲームをしたい若い世代が来館して交流する**のではないか。

・子ども達が練習できる**ダンスのスペース**や、**防音装置の付いた楽器演奏ができる場所を確保**してあげたい。

＜世代交流―憧れによる学習＞＜ボランティア体験＞

・自分の今後を考えると、少し上の世代が輝いている姿を見て目標にしたい。市民館は、幼稚園生が小学生に憧れたり、小学生が中学生に憧れたりするような、**少し上の世代に憧れる体験ができる場であってほしい**。娘は中学校の家庭科部で縫物をしているが、例えば、市民館で刺繍をしている方に教わる機会があると、次の意欲や活動につながる場になると思う。

・憧れは、社会教育の大元で生涯学習の道筋にもなる。そのためには、発表の場や、普段の活動の場を見ることが大切だ。**オープンな館**にするためには、ハード面と共に工夫が必要だ。

・**講座などで作成したものを発表する場として市民館を活用することで、人目に触れて新たな交流も生まれる。**グループ活動でも発表の場がとても大切である。「夏休み子どもあそびランド」の特別企画「ホールで紙飛行機を飛ばしてみよう」は、目的としては、大ホ

ールの広い空間を使って紙飛行機を飛ばすことができることだが、一方で、企画の狙いは**ボランティアに教えてもらうことで多世代交流**を考えている。

・**市民館で初めてのボランティアを行うこと**を考えても良いと思った。実際に参加して、小さな子どもたちに教えたり市民館職員と関わったりすることが楽しかったと話している。ボランティア入門としても良い企画だと思う。主に小学生までの子どもが紙飛行機を飛ばして楽しむイベントだが、ボランティアの中学生等も楽しめるような企画も考えていきたい。

・紙飛行機を折って飛ばすだけでなく、着陸した場所により「大当たりエリア」などを設け、ポイント制になっていて楽しそうだった。

・自分たちもＺｏｏｍを使って繋がろうとしたが、実際はＬＩＮＥの方がシニアでも慣れている方が多い。現在はスマホを活用することが必須になってきているため、**「スマホボランティアになりませんか？～スマホを教えるグループを作ろう～」で先生を養成することは、市民館ならではの講座**だと思う。その講座を受講した方が、講師となって生き生きと活動してもらいたいと思う。習いたい人が受講するだけでなく、教える先生を養成することも必要だ。

＜オンライン＞

・市民館・図書館が遠くて来館できない人へのアプローチも考えなくてはならない。

・「みやまえ子育てフェスタ」のプレイベントにＺｏｏｍで参加した。出かけずに、子ども達がマスクを外して話せること、自宅で子どもが作品作りに集中できたことは新鮮に感じ、**オンライン参加の良い面**があった。

・菅生分館で実施した「シニアの使えるスマホ活用術」は、希望者も多いということなので、継続によってＺｏｏｍの活用に繋がる。

・民生委員の活動もコロナ禍で研修や講演会が少ないため、情報が入ってこないので、**ＺｏｏｍやＳＮＳでやり取りできるようになることが課題。**（委員の年齢差があるため、新たな手法に対応することが難しい年代に研修をしたいがコロナ禍で実施できない）

・グリーンハイツで**Ｚｏｏｍカフェ**を開設して、役者さんが自宅で宮沢賢治の一節を朗読し、それを参加者が自宅から聞く読み聞かせが好評だった。新市民館・図書館でも**大人のための読み聞かせ**を実施してほしい。自分で本を読むことも大切だが聞くことも大切。

＜オープンなハード、運営の仕方と課題＞

・新市民館・図書館について、**通路や各部屋をオープン**にして、**来場者に活動の様子がわかる**ようにしてどんな活動が行われているのか、見える方が良い。**壁面に子ども達の絵の展示や告知**をするなど、様々な活用ができる工夫がほしい。生涯学習で大切なのは、学習して発表することだ。発表の場は必要であるため確保しなければいけない。

・グリーンハイツでは、プールの跡地を**誰もが集えるサロン**のような場所にした。どのように人を呼び込むか検討し、**個人の作品展**を実施した。絵画や写真、書道などの呼びかけに応募があり、一週間無料で個人展を開いたところ、様々な人が訪れている。

・新市民館の**ギャラリーで、小学校単位の作品を展示**したら、**通勤帰りの父兄が見学**するのではないか。ただ、**個人名が出ることの問題や、子ども達が公平に作品を出せるような配慮が必要**だ。

・例えば、**小学校単位の作品展**ならば、市民館や図書館が連携してテーマやコンセプトを決めて、各学校に依頼して集まったものを展示する。

・今まで団体が既定のルールに沿って開催していた展示や発表が、高齢化などにより発表できないことが増えている。そのようなグループを支えるために、もう少し**ハードルの低い利用方法**があると良い。

・一般の市民が誰でも作品を展示できるとなると**公平性は担保できるのか。**例えば、早いもの順になってしまわないか、**民主的な運営**ができるのか、ということが課題である。

・文化協会としては、様々な活動が気軽に無料にできるようになると、その影響について**懸念**がある。市民館利用は、一定の要件を満たした団体には減免措置が取られ、文化協会名義でホールを利用される場合と、一般にホールを利用される場合は、料金に違いがある。そのため、無料で利用できるスペースがあると、文化協会の会員は会費を払うので、施設を安い料金で利用できるメリットがなくなることを心配している。文化協会は各種の文化活動の発表や、地域との交流、文化行事の協力や支援活動もしているが、高齢化で会員の減少が課題であるため、気軽に発表したい人達と文化協会が繋がりながら活動できたら良い。

・新市民館で、何でも気軽にできるようになってしまうと、会費を払って文化協会に入る団体が減ってしまうと懸念。

・お金を払わなくても活動できるなら、その方が良いのではないか。

・時代の変化を感じた。現在は、以前からある組織を知らない世代も増加したこともあり、**個人が活動を始めるようになった**。例えば、補助金をもらい、日本の伝統文化を子ども達に伝える会を立ち上げた人がいる。市民館でそのような活動ができれば良い。

＜利用の仕方・運営方法＞

・**参加条件や場の利用方法、時間のルールなど様々なハードルを下げる工夫をどのようにできるか。ハードルを下げれば参加者や利用者が増加すると**思う。

・**図書館の時間を延長**すると来館者が増加すると思う。午後８時頃まで延長すると利用しやすい。

・**開館時間の延長や、フレキシブルな運営方法**は、職員のローテーションのこともあり、行政の力だけでは難しい。海外にある２４時間開館している図書館は、地域住民の支えでローテーションを組み、皆で運営している。**行政に任せるだけでなく、市民の力を集結してサポートしていく**ことを並行して考えないと難しい。意欲のある市民の力を発掘できると良いと思う。

・市民館で実施する講座に、複数回参加するのはハードルが高い。**単発で予約なしで気軽に参加**できたら良い。

・**インターネット予約のルールを踏まえて、空き時間に自宅で市民館講座が受けられる**様なコンテンツの提供や開発ができればよい。

＜フリーマーケットなどの物販について＞

・**フリーマーケット**は集客という意味では、一般市民の興味を引くと思う。

・小学校のフリーマーケットなどは参加費が安く大盛況だ。

・公の施設で、私的な利益に繋がる商売を許可することはない。催しなどでの出店は、区役所の単独事業ではなく実行委員会を組織して行っている。そこでの出店の募集や出店料金を支払ったうえでの販売は構わないが、私的なフリーマーケットのためスペースを貸してほしいということに対しては、行政が許可を出すことはない。各区で区民祭や市民祭り等が実施されているが、大半が実行員会形式だ。**様々な市民が構成員となり組織され、運営をする主体が実行委員会となるため、販売が許される**状況になる。「みやまえ福祉フェスティバル」の開催でも手作りの物を販売する。材料費等を除いた利益は区の社会福祉協議会のものになる。

・社会教育施設や生涯学習支援施設では物品販売はできないと言われてきたことであるが、もう少し緩やかにならないか。

・ワークショップでは、物品販売は自分の利益を得るのではなく、次の活動のモチベーションを上げるため、**材料費程度の収益なら問題ない**のではないかという意見もあった。**作品が物販に結び付くと、次の作品作りの動機に繋がる**。商売ではなく、自分の作品を愛してくれる人に譲るという形の物販が実現すれば、生涯学習を継続する際の筋道となり、**仲間づくりや来場者と出品者の繋がりも広がる**ため、大きな力になる。

・以前、地域教育会議が富士見台小学校でフリーマーケットを開催した。ルールを決めたうえで各家庭から持ってきたものを、子ども達が子ども達のために売る場とした。その後、宮前区内の小学校にも広まって、大盛況だった。売上は寄付することが多いそうだ。

＜商業施設との融合連携＞

・お祭りの際、鷺沼駅前でフリーマーケットを開催していた。新市民館は東急も入っているので、そちら側で継続するのではないか。

・**東急に申し入れが可能なら、市民が作品を販売できるようなスペースを要望したい。市民が自分の作品を発表して売ることは非常に増えている。市場のような大きな場を設置**してくれると良い。それによって市民館に足を向けるきっかけになると思う。

・コロナ禍で在宅勤務者が増加しているが、**パソコンなどを持って外で仕事がきるフリースペース**を確保できると利用者が増える。二子玉川駅近くの喫茶スペースなどでも、パソコンやタブレットで仕事をしている人を多く見かける。

・昨年８月の基本計画では、大きなコンセプトや方向性を示している。そのベースにある新しい市民館・図書館の考え方の中で、「**行きたくなる**」「**飛び出す**」**というコンセプトがあり、それは、いつ来ても何かやっている、まちとつながる、というようなことだが、鷺沼という賑わいのある場所で、お店と連携をすることにも通じてくる。**

・**新市民館・図書館の融合を建物の作りでも実現し、相互利用して使えるように考えたい。**同様に**商業施設との融合として、カフェやコワーキングスペースなどとの連携も考えたい。**限られているスペースを、商業施設との連携をしっかり図っていくことで、幅広い利用形態がとれるのではないか。例として、図書館の本を図書館の中だけで読むのではなく、気軽にカフェなどに持ち出せると、より広く使える。

・**広場も発表の場として使っていけるように、東急側と運営のルール作りをしていく中であらかじめ東急と連携できる関係づくり**をしていきたい。

新市民館・図書館を単体で考えるのではなく、融合や連携をしっかり考えながら検討していくことで、多くのニーズを実現の方向へ持っていける。

・**市民館を使うメリットは、価格が安いだけでなく、地域を理解して交流が広がる、そして地域が自分の活動の場になる**ことだ。もっと積極的に使える企画があると良い。

＜まとめ＞

新市民館が鷺沼駅前に移転することにより、もっとも注目された新たな利用市民は個人の市民である。ひとりでも気軽に来館するためには、自由な参加方式やフレキシブルな運

用が前提になる。リラックスできる空間（フリースペース・カフェ）やコワーキングスペース、更にオープンな個人の発表の場などが求められた。そのためには、利用に関して案内をするコンシェルジュや運営のためのコーディネーターを置いたり、公平性が担保できるよう民主的な運営ができる市民参加の実行委員会形式を取り入れたりすることが検討されてよい。

また、学生を含む若い世代の市民を引き付けるボードゲームや楽器演奏、ダンス練習などは、ハード環境が前提となる。今までは制限があった物販へは集客の高さもあって要望が強い。隣接する商業施設との融合や連携を考えトータルな空間つくりを進めれば、駅前の地域全体が魅力的なものとなろう。

5. 情報を届ける仕組みについて（令和 3 年 12 月）

「情報を届ける仕組み」については、従来から市民館だより、市政だよりなど紙媒体の配布や、チラシが配架されたりしている。ポータルサイト「みやまえご近助さん」や市民館のメールマガジンなどのネット情報は見ている人はまだ少ないようなので、目に留まる方法を考える必要がある。

これまでも広報については、どんな媒体を使いいかに有効に伝えることができるか、腐心してきたが、なかなか決定打が見いだせない。特にコロナ禍で事業そのものの減少に加え、口コミという媒体も機能していないのが現状である。しかしながら、広報が功を奏した事例や企画そのものの工夫などで盛況な事例から、情報を伝える工夫を協議した。

＜コロナ禍での課題＞

・コロナ禍で人と会う機会が限られ、情報を得られないことが課題。乳幼児連れ保護者に向けて企画できれば良い。

・各委員の活動からも、**コロナ禍で人との繋がりが分断されている状況が**わかる。物理的な分断だけでなく、情報の入り方にも影響があり、実際に心を壊す人もいる。改めて**人間が交流したり繋がったりすることが大切**だと実感している。

＜新市民館の紹介・周知ポスター＞

・鷺沼駅前への移転により、利用者は増えると思う。利用方法や**市民館は楽しい場所と思えるように周知を**してほしい。

・市民館や地域の団体がどのような役割で活動しているか知らない市民が多い。小学生の高学年を対象に、民生委員や文化協会などの活動について講座を開く。**子どもに広報**を広げると将来の活動につながるのではないか。また、市民館も知らない市民が多いので、鷺沼移転にあたって、**勉強会を開催**しても良いと思う。

・社会福祉協議会への理解を広げるために、民生委員でポスターを作成して広報した**市民館周知のためにポスター**を掲示したら良い。鷺沼駅前で人が多く通るようになれば、目にする機会は増加する。

・２年前の本会でも、広報のあり方としてロビーの展示やチラシの置き方について協議したが、一見してわかるポスターは良いと思う。

＜対象ごとの広報とアクセス＞

・市民館の講座の募集開始などは、**市民館のメールマガジン**に登録しておくとお知らせが載るが、まだメールマガジン自体を知らない市民も多い。

・菅生分館の「親子で自然エネルギーを楽しもう！」は、夏休みの自由研究のヒントになることから好評で、のべ１０４組の申し込みがあり抽選となった。チラシと菅生分館だより、菅生分館のホームページに掲載したが、反響が大きかったのは、**各小学校の協力を得てチラシを生徒に配布**したことによる。また、**市政だよりの宮前区版への掲載**も反応が良かった。

・宮前市民館の「手間抜き弁当～梅雨に守る７つのルール」は盛況だったが、 **チラシの配布や市民館だより、タウンニュース**にも掲載され数日で定員になった。

・広報について、**高齢者対象の講座は、チラシを社会福祉協議会を通して民生委員から配布したり「老人いこいの家」など高齢者が集まる施設に置く**と良い。

・**宮前区は、情報が端の地域まで行き渡らないことが課題**であるため、自主防災組織連絡協議会の啓発目的の「防災フェア」と宮前区全町内・自治会連合会の多世代交流事業「ご近助ピクニック」のジョイントイベントを、**向丘地区など離れた地域で実施**を計画中。

・広報は、対象のＰＴＡに何を発信するか、どのように伝えるのかが課題。

・文化協会の展示会やギャラリーの展示にはワクチン接種の来館者により、見学者が増加した。市民館に来てくれさえすればと広報の仕方が課題。

＜有効な広報　参加を増やす方策＞

・**地域の規模に応じた情報発信と広報の手法は密接に関係があると思う。**

・市政だよりに掲載できなかったものが定員より少ない申込みだったことを考えると、**市政だよりが広報として有効**なのではないか。

・菅生地区は学習意識の高い方が多い。以前から活動している方が多いが、継続していくためには人材育成が課題となっている。

・菅生分館だよりは、**各自治会から向丘地区全体に広報**しているため、参加している人が多いのではないか。

・菅生分館だよりの裏面の「菅生の魅力発信」の覧に「菅生中学校区地域教育会議のあゆみ～改革の歴史～」が掲載されている。地域教育会議について、宮前区は川崎市の中でも活発に活動していたため、以前から様々なことを発信している。しかし、固い名称のためか未だに何をしているか伝わりにくい。各地域教育会議が広報誌を出しているが、

メディアミックスで重層的に菅生分館だよりなどに掲載することで、地域教育会議について目に留まりやすくなると思う。

・**菅生おもちゃドクターの会**というグループ活動があり、基本的に随時募集で今年も２人ほど加わった。一方、高齢化もあって抜ける方もいるので、１０人～１５人くらいで活動している。見学も自由で特殊技能もいらない。奇数月の第２日曜日は菅生分館、偶数月の第４日曜日は宮前市民館で活動している。その場で治らないおもちゃは、「入院」というシステムで、ドクターが持ち帰って治してもらっている。おもちゃ病院は使い捨ての時代の中、物を大切にすることに繋がる。**定員を増やしたことで参加者が増加**している。また**申込期間を２か月間と長くしたため、**ほとんどの回で満員になっている。

・「あたらしい宮前市民館・図書館を考えるワークショップ」で地域の方からもご意見が出ていたが、図書返却ポストが宮前平駅に設置されて喜ばれていると聞いた。菅生分館や向丘出張所にもあれば便利だと思う。図書返却ポストを置くことで、**「出前型返却」**として研究課題の「出前事業の活性化」に繋がるのではないか。

＜ご近助コンシェルジュ・ご近助ポータルサイトとの連携＞

・**「ご近助コンシェルジュ」**として、町内会自治会など地域情報を取材から掲載を担当しており、コンシェルジュ一人当たり、年間４本の掲載を求められている。**自分で集めるケースと区役所や町内会自治会から情報をもらう方法で情報収集**している。取り上げられた町内会自治会の方から反響がある。例えば、「地域の施設に宮前市民館から出前事業が来ます」など、町内会自治会が市民館とコラボレーションする時は、内容をコンシェルジュに伝えて掲載できる。

・「ご近助コンシェルジュ」も自発的に見に行く人が少なく、見る動機付けが少ないのだろうか。例えば、Ｆａｃｅｂｏｏｋなどを見ていると住んでいる**地域の情報が画面にポップアップ表示される**ことがある。**自分が情報を取りに行かなくても、地域の情報や活動紹介などの情報が入ってくることはとても良い。**おそらく、ＡＩが行動や検索から判断し情報を送ってくるのだろう。その人の行動や、何を見たかが積もってデータとして判断されている。ホームページはアクセスして見に行くもの。欲しい情報や知りたい情報がそこにあるとわかっていれば見に行くことができる。世代により地域の興味や必要な場面が異なるが、２０代から４０代を対象としても、なかなかアクセスしてもらえない。

・情報が欲しい人は取りに行くと思う。紙媒体なども隅々まで見ると思うし、知りたいことはインターネットで検索する。ただ、知りさえすれば参加するかもしれない程度の人にどうしたら届けられるかと思う。

・やはり、情報が降ってくる様なものが一番良いのではないか。イメージは、自分が選びたいものを探して密林の奥に行く方法と、海辺に立っていて星が降るごとく落ちてくる中を探して、見つかったらキャッチして奥へと進んでいく方法の２つがある。現在の**ポップアップ画面などはほとんど後者の方だ。取りに行くことはエネルギーがいるが、降ってくるものは必要なければ捨てれば良い**だけだ。何か良い方法論はないか。

・**ご近助ポータルサイト**は、若い世代の町内会自治会への加入促進も目的としているサイトだ。宮前区を９つのエリアに分け、９人の４０代のコンシェルジュが若い人の視点で町内会自治会を見て、情報をサイトに掲載する。すでに加入している人だけでなく、加入していない方が地域のことを知ることによって町内会自治会に興味を持っていただく。

＜若い人への発信＞

・**今の中高生はＳＮＳでのＴｗｉｔｔｅｒやＩｎｓｔａｇｒａｍ、ＴｉｋＴｏｋの３つが主流。ＬＩＮＥはあまり使っていない。**

・**若者に効果的に届けたい場合、Ｉｎｓｔａｇｒａｍを活用**しているところはある。

・川崎市でも、様々な部署が、ＴｗｉｔｔｅｒやＩｎｓｔａｇｒａｍなどに取り組んでいる。他の自治体の類似施設を視察する機会があったが、ＳＮＳを活用していた。発信している情報は募集の告知やギャラリーの催しで、集客に繋がっているとは言えないとのことだった。

・可能なことはやった方が良いと思う。**市政だよりや紙媒体の力も侮れない**。しっかり見る人もいるため、**ＳＮＳなどと両方で発信することも必要**になると思う。但し、**紙媒体は締切日が早いため、間に合うかがポイントになる。**

＜目に着くスポット＞

・コロナ禍で、**市民館ロビーのコミュニティカフェ**が開催できなかった時に、集まれないことに不満が出ていた。そこで、ワクチン接種がない日にコミュニティカフェを再開したところ、リピーターとなって楽しみに来てくれる方もいる。**目に付く場所で活動していると、立ち寄って、次回の予定を聞いて参加してくれる。口コミで人から人というよりは、リピーターが集まるスポットを作って、そこに情報を集めておくこと**は一つの手法ではないか。菅生分館にも**「おしゃべりサロンすがお」**があり、いつ行っても何かやっているというのは良い

・市民コンシェルジュは、ラックにあるチラシをただ案内するだけでなく、一括して集め、カテゴリー別に分け、関連するチラシ情報を一覧にして見やすく平場に置いて案内

をしていく。コミュニティカフェのような場所に、**地域の情報が集まるスポットを作ったり、市民コンシェルジュが情報を案内する地域情報プラザのようなスペースを作ったりしたら良い**のではないか。８月と９月はギャラリーの展示がある時に市民コンシェルジュの活動を行った。人が集まるので有効だと感じた。一方で、宮前市民館の中だけで活動すると、来館しないとコンシェルジュにも会うことがないので、様々な場所へ出前できれば良い。

・**情報が一方的に届くだけでなく、情報でつながった方が良い。その間に 人が入ることが望ましい。チラシも人に手渡された方が見たい**と思う。情報の発信元から次に繋がり、またそこから広がっていけば良いと思う。

・手間はかかるが、そのひと手間で効果が変わると思う。**ただチラシを置くのではなく、声掛けしたり、寄り添って話を聞いたりすると持って帰っていただける。その手間が必要**だと思う。

・情報が川上から川下へ流れるような仕組み作りが必要だ。アンケートや目安箱のように、双方向で発信したり質問したりできれば良い。

＜紙媒体の配布について　ターゲットに届く配架場所＞

・今、**紙媒体を地域に届ける手段は、自治会の回覧板や自治会や市の広報掲示板へ掲示することだ。更に、様々な施設とタイアップして情報発信**できないだろうか。例えば、こども文化センターや学校、農協などに紙媒体を置かせてもらう等、交流を保ちながら情報発信することも一つの方法だ。地域に出向いていく**出前の紙媒体**であると良い。

・東急沿線なので東急と連携して、**駅のデジタルサイネージに情報を流してもらえると良い。**

・基本的には、**町内会自治会の回覧やこども文化センターや老人いこいの家などの様々な施設に配架し**ている。コロナ禍では町内会の回覧が止まっていたので、その間は、**郵便局や金融機関に持ち込んで置いてもらった**。また、新規開拓をして**セレサモスや東高根森林公園のビジターセンター、最近はフロンタウンさぎぬま、ヨネッテイー王禅寺**などにも置いてもらって、少しずつ目に留まるようにしている。郵便局やＪＡ、川崎信用金庫などの金融機関を回って、置いてくれるところもあり目に留まったようだ。**鷺沼駅のチラシスペース**にも置いてもらっている。

・紙媒体をどこに置くか、一例であるが、宮前市民館にある**コロナワクチンの接種会場の待機場所**は来館者が立ち止まって見てもらえる。そこにあった、宮前区の地域教育会議の市民委員募集のチラシを見て入会してくれた。

・**市民コンシェルジュ**もワクチン接種がある日に実施した。手持ち無沙汰なので、見に来てくれた。ワクチン接種に来る人は、宮前市民館に縁がない人が多い。そんな人をターゲットにした。

＜学校経由の情報発信＞

・「あたらしい宮前市民館・図書館を考えるワークショップ」でも、学校を通じて情報を出してほしいと中学生から意見が出ていた。情報を知らないし、市民館へ来ないとわからない、親も興味がなければ知らないということだった。**学校経由**はもう少し考えても良い。

・「市民館だより」は、町内会では回覧されているが、見ない人も多い。例えば、学校経由なら保護者が見てくれるのではないか。**学年や学校を限定して効果的に配布**するのはどうか。

・学校を通してチラシも配布したらどうか、子ども向けのイベントは全校生徒に配布をお願いする。例えば、**夏休み前に子ども向けのキャッチフレーズを作り、「夏休み子どもあそびランド」をメインに様々な子ども向けのイベントを企画して、チラシ１枚にまとめて学校経由で配布する**というように、フォーカスしていかないと、対象になる子どもやその保護者に伝わらないと思う。

・市民館だよりが自治会に配布できなかった時、**小さな子ども向けの講座があるときは保育園にチラシ**を置いた。「夏休み子どもあそびランド」は規模を小さくしたため全校配布はしなかったが、地区の学校には直接持参した。**時期や期間を定め、広報の質と量を上げるというのは良い。**

・**集中して広報する**のは良い。**後に効果を検証し、持続的にできることは何か検討する**のは良い。

・大人向けのチラシも配布できるではないか。子供を通して配布すると保護者は目を通すのではないか。

・市民館から発信し、学校経由で子どもへ配布されるチラシも、先生は内容を説明できないため、受け取るだけになっている。

・ＰＴＡ関係で様々な学校の情報を収集しているが、今は子供から親に渡る確率が低いようだ。

・渡す学年を考えれば素直に渡せると思う。具体的なことを一つ一つ積み上げていくしかないと思う。渡らないのは各家庭のコミュニケーションの不足だ。ただ、チラシをきっかけに親子のコミュニケーションツールの一つになるなら、違う観点で良いことだと思う。まずやってみるのは大切だろう。

＜広報のグランドデザイン　重層的な発信　関係部署との連携＞

・まちづくり協議会から補助金を得ている団体がＺｏｏｍで発表をしたのだが、**ＹｏｕＴｕｂｅに上がってもその情報すら知られていない。どうしたら、ネットワークが繋がるのか、行政の中で広報について相談できるところはないのか。**

・広報は最大の課題だ。**市民館が市民と双方向で情報を集積する方法**を考え大きな傘を作る、その傘下で市民コンシェルジュやコミュニティカフェが出前に行く。あるいは、学校や町内会自治会などの広報の組織図を作って、どこにどのように連携をするかなど、**全体構想**を作らないと進んでいかない。

・今期は市民館が地域に出かけることもテーマになっているので、各地域と市民館の繋がりをより強固にする仕組みとしても、広報によって活動内容を地域に伝えることが非常に大切になるため、**情報を共有するネットワークづくりも必要**である。

・この地域で活動したい時、自治会施設の部屋の空き情報が無い。場所の情報も繋ぐ手だてがあれば良い。**町内会自治会を所管している地域振興課と連携**していかないと地域に出ていけないのかもしれない。また、「健康体操」によって地域の活動が盛んになっていることから、**地域包括支援センター**も地域をよく把握しているようで、連携したら良い。

・**ソーシャルデザインセンター**は、そういった機能を目的として動いている。宮前区は、まだ仕組みづくりの段階だが、幸区や多摩区のように場所を固定し、実際にそこで情報が得られるといった形ではない手法を考えている。

・本庁は広報を総括している部門があるが、各区に広報担当は明確に置かれていない。本庁では、例えば、アゼリアビジョンの掲載や川崎市の掲示板への掲載募集を取りまとめている。

・「タウンニュース」の担当者が毎週回ってくれる。情報のやり取りをして、講座ができたらチラシを渡して掲載をお願いする。文化協会では、タウンニュース側からの掲載依頼の場合は無料で掲載してくれる。ワークショップを実施した際、タウンニュースを見た参加者が多かった。

＜メールマガジン・アプリの可能性＞

・今市民館は紙媒体での情報発信の一方で、**メールマガジン**を始めた。何かやりたい方が登録すれば**自動的に情報が入ってくる**、メールマガジンに登録してもらうよう案内している。講座・イベントの情報や定員オーバーになった時のお知らせなどを配信しており、「ホールで紙飛行機を飛ばしてみよう」などのイベントに参加された方にも登録を

お勧めしている。メールマガジンの登録者数は７月から始めて、１０月時点で４０件前後だったと思う。スマートフォン２０、パソコンが２０とういう感じだ。

・例えば、メールマガジンなども登録するとポイントが付くなど、**メリットを付加**しても良い。

・世代によって紙媒体だけではなく、別媒体を活用することも当面続けていく必要があると思っている。例えば、**市民館アプリ**があるなら、ダウンロードしておけば情報が降ってくる様な仕組みがつくることができると思う。まずは、**市民館とは何か、何をやっているのか、何ができるかの周知が足りないため、情報を取る行為に至っていない**と思う。そのため、**市民館として魅力あるコンテンツを作って、興味関心を高めてもらい、参加者を増やすことも重要**である。対象を絞り、そのうえで、どんな媒体を使っていくのか考えていく。

＜キャッチフレーズ、予告告知＞

・流山市の例であるが、「母になるなら流山市」という**キャッチフレーズ**を掲げ、**ターゲットを絞り**、子育て中の共稼ぎ夫婦を呼び込むことに力を入れた。税制の優遇措置、駅に送迎保育ステーションを設けることで、保育園の場所を選びやすくした。宮前市民館も「用のない日は市民館」「〇〇になるなら宮前市民館」というキャッチフレーズを作ると良いのではないか。皆が親しみをもって楽しくなると思う。鷺沼移転のタイミングでつけると良い。

・**イベントや講座の時に、次回の予告をすると、参加者から口コミで広がって次に繋がると思う。**

＜まとめ＞

これらの広報を戦略的に実施するためには、選択と集中が肝要である。対象者を選択し、その対象者向けの企画を集め集中的に、情報を出す。対象者の行動範囲の中の場所（学校や福祉施設など）にアクセスポイントを作って、できるだけ手渡し・口コミでフォローする。一方でメディアミックスによる重層的な情報の出し方をしていく。このような戦略的なマーケティング発想が必要。電子媒体は今後大きな柱になるが、そもそも電子媒体があることを知らない人への取り組みがまず必要となる。

6. おわりに

市民館が何をするところで、自分とどんなかかわりがあるのか？市民館自体の理解が進んでいない。委員の中にも委員になるまで市民館を知らなかった人は多い。

新しい市民館はいろいろなタイプの市民が利用することを考え、ターゲットを絞って集中的に広報をかけていくことが今以上に大切になる。市民館鷺沼移転に合わせ、市民館そのものの働きを周知するべく、例えばキャッチフレーズを作って、市民館の価値を伝える工夫も必要である。「用が無い日は市民館」「市民館に行けば地域が見えてくる」など、気軽に行けて楽しい時間が過ごせることをアピールすることが大切である。

今回のコロナ禍で、人が人と繋がることの重要性を改めて実感した人は多い。いったん途切れそうになっている繋がりの糸を太く、多くするために、何をすべきか？

これまで市民館を利用していない市民、例えば孤立しやすい核家族の子育て世代が鷺沼移転によって急に利用できるわけではない。地理的に市民館に行きにくい市民は一定数いる。そこで、市民館から地域に出ていき、市民の身近な場所で生涯学習が展開されることが望まれている。そのためには、地域に関係する町内会自治会や健康福祉部署との連携や民生委員とのネットワークが必須である。寺子屋の利用はこれからますます大きな比重を占める一例である。出前事業の実施場所、広報、出前先生の育成など地域コーディネーターと一緒になって進めなければならない。地域コーディネーターの養成や市民コンシェルジュの活用など繋ぎ役の人を増やすことも急務である。

鷺沼駅前という立地から見込まれる新たな利用市民をどのように引き付けるかについても、隣接する商業施設との融合や連携があれば物販やカフェなど魅力的なコンテンツを展開できよう。

更に広報について、子供たちへの学校や幼稚園などとの連携を通じて情報提供し、若い人たちへは電子媒体を駆使して情報拡散してもらえるような仕組みが欲しい。個別の事業や講座の個々の広報にとどまらず、関連事業やターゲットごとのひとまとまりの広報の仕方も検討し、包括的・重層的に広報する体制を作れば効率が良い。

このように様々なステージで、関係部署が一緒に取り組まなければならない。こうしてみると、いまさらながら本会に所属している各委員の役割が大切になってくる。地域の団体から選出されている各委員は、自分がなんのために本会に出席し、出身母体へどうフィードバックすればよいのか、わからない人が散見される。市民館が地域に根差し支えられてこそ機能することを考えれば、地域の基礎基盤の町内会自治会・民生委員や学校・ＰＴＡ、更に分館との連携がさらに太くなることが必須である。更に、新市民館が個人にも団体にも広く開かれた施設になるためには、市民の目線を取り入れた実行委員会が運営に携わることも大切である。

「人と人を繋ぐ」ためには、多くの人手と手間がかかるが、ひとたびつながる仕組みができれば、その後はどんどんアメーバーのように広がっていくことを確信している。

＜添付資料＞

宮前市民館専門部会　会議等日程

令和２年７月７日	令和２年度第１回	市民館図書館への要望
令和２年９月１５日	令和２年度第２回	テーマ決め
令和２年 12 月８日	令和２年度第３回	テーマ・協議項目決め
令和３年２月 21 日	令和２年度第４回	市民自主企画事業・講座選定
令和３年７月８日	令和３年度第１回	出前事業の促進について
令和３年 10 月 13 日	令和３年度第２回	新たな市民利用の為の企画
令和３年 12 月 24 日	令和３年度第３回	情報を届ける仕組み 地域とのつながりを強固にする仕組み
令和４年２月 20 日	令和３年度第４回	市民自主企画事業・講座選定

宮前市民館専門部会　委員名簿

任期：令和２年５月１日から令和４年４月30日

氏　名	所　属
部会長　川西（かわにし）　和子（かずこ）	調査モデレーター・分析・各種司会・日本語教授
副部会長　杉田（すぎた）　懇生（はるお）	菅生分館利用者懇談会　前代表
山本（やまもと）　良子（りょうこ）	宮前区第４地区民生委員児童委員協議会　会長
近江（おうみ）　弓子（ゆみこ）	市民委員
川田（かわだ）　和子（かずこ）	宮前区全町内・自治会連合会　副会長
上村（うえむら）　和弘（かずひろ）	宮前区ＰＴＡ協議会　会長
中村（なかむら）　布佐子（ふさこ）	宮前区文化協会　副会長
吉野（よしの）　晶子（あきこ）	土橋小学校　校長

令和２・３年度
川崎市社会教育委員会議 宮前市民館専門部会
研究報告書

「　人と人を繋ぐ市民館であるために　」

令和４（２０２２）年３月発行
編集　川崎市社会教育委員会議 宮前市民館専門部会
（事務局）川崎市宮前市民館
川崎市宮前区宮前平 2-20-4
電話　０４４－８８８－３９１１